

あさひの日だまり

NO. 2

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～新鮮な気持ちで～

新しい私になりたい。

新学期がスタートしました。新入生、進級した皆さん、そして進学して中学生になった皆さん、それぞれに新しい場所での生活が始まっています。節目に立つと「今年はこんな私になりたい」そう思う子が必ずいます。「こんなところを変えたいな」「友だちのあの素敵なおところを私も真似たいな」ということを考えるわけです。そういう気持ちを秘めた子どもの前に「この子は前からこういう子だった」という気持ちで私たちは立ってはいけないと思っています。新しい私を求めている子どもたちと新鮮な気持ちで接していきたいと思います。

年度当初に先生方と学校運営の方向について意識を共有する時間をいただきました。校長としての思いを記したプリントをお配りして「願い」をお話ししました。資料の一部を抜粋して掲載させていただきます。保護者の皆様、地域の皆様にもお読みいただき、学校の進む方向を支援していただけたら幸いです。

○ 今年度大切にしたいこと

私は小学校時代に「学校」が楽しかった思い出がありません。どれもこれも楽しかったのは校外での体験です。何かにつけて怒られるので「本当に僕はダメなんだ」と自信のかけらもなかったこと。怒られない子が羨ましかったこと。学校の思い出はこんな感じです。私にとっての6年間の学校生活は長く退屈で自信の持てない時間でした。

そういうこともあり、私は切に子どもたちが「学校って楽しい」と感じて欲しいのです。ほっておいても「学校って楽しい」と思ってくれる子もいます。一方で、私たちの支援により初めて「学校って楽しい」と思える子も必ずいます。先生方、どうぞ子どもたちが「学校って楽しい」と思える支援をお願いします。先生方の創意と工夫を何卒お願いいたします。

自分に「自信」のある子は学校でもいろいろなことに活動的に「挑戦」できます。「自信」の無い子は何事においてもしり込みしてしまいます。「挑戦」できる子は「充実感と満足感」を感じる機会に多く恵まれます。「充実感と満足感」は人が「楽しい」と実感することに結びついていると思います。この「楽しさ」がさらにいっそう「自信」を生み出してくれます。このサイクルに入った子は「学校って楽しい」となるはずです。

「挑戦」＝「自ら課題を見つけ、自ら解決の道を考え判断し、自ら行動を起こすこと」＝「自律へ向かう姿」と考え、本年度子どもたちの「自律へ向かう姿」を全職員が意識を共有して目指したいと思います。

どうぞ子どもたちが「挑戦できる場」を「自ら考え行動できる場」を作ってあげてください。「失敗」は貴重な経験です。「失敗」は「充実感と満足感」に影響をそれほど与えないように思います。

前年踏襲を疑いましょう。常識も疑ってみましょう。子どもたちが挑戦を「楽しむ」ことが「自信」を育むことにつながると思います。

どうぞ先生方「挑戦」の1年としてください。素敵さを認められて笑顔になる子どもたちの表情に出会うことで子どもたちと喜び合いましょう。先生方にとって楽しい1年となりますことを心から祈っています。

○ 子どもたちを見つめるときに考えてほしいこと。

- 1 私は、「この子が私の子どもだったら、私の姉弟だったら」という気持ちで目の前の子どもたちを見つめ、自身の行いを振り返りたいと思います。
- 2 私たちは自分の心の中に周囲から素敵さ一面と認められる部分と課題として捉えられる両面を持ち合わせています。私たちは「あなたの素敵なおところはこういうところだよ!」という声がけをしてあげたいと思います。子どもたちは自分の素敵さに気が付いていません。そのことが「自信」の無さに結びついているとすればそれはとても悲しいことです。

というようなお話をしました。何よりも「学校は楽しい」と思ってくれることを強く願います。そのために教職員

一同精一杯子どもたちのために力を注いでまいります。

～1年生の給食が始まりました～

楽しい給食になりますように



食というのは人の命に結びつく大切なことです。だからどの子ども何でも食べられて、栄養補給を十分にできているかという点と決してそうではありません。食の細かい子。牛乳を飲めない子。少しずつ飲み込む子。どうしても食べられない食材がある子。子どもたちの様子は多様です。私の子どもも食に対する困難さを大きく抱えていました。そのことがきっかけで学校生活にも支障をきたしました。そういうこともあって私は子どもたちの給食が楽しくスタートしてくれることを心から願っています。「給食って楽しいな」というイメージでスタートをきった子どもたちはこの先ずっと

食に対してよいイメージを持ってくれると思います。

食は栄養補給のためだけのものではありません。私たち大人の世界を見れば食が人生の中でいかに大きな部分を占めているかわかります。食は「楽しむ」とことと大きく結びついています。食を楽しめる子どもたちになってくれることを心から願っています。

～不審者対策防犯訓練が行われました～

自分の体を守るのは自分

伊那警察署からスクールサポーターの方をお二人お迎えして不審者対応に関する訓練を行いました。お話しの中に「いかのおすし」というお話がありました。子どもたちが防犯意識を高めやすくするための語呂合わせです。私も初めて聞きました。

「いか」・・・知らないひとにはついて「いか」ない

「の」・・・こえをかけられても、くるまには「の」らない

「お」・・・知らないひとにつれていかれそうになったら「お」おきなこえをだす

「す」・・・こえをかけられたり、おいかけられたりしたら「す」ぐににげる

「し」・・・こわいことにあったりみたりしたら、すぐにおとなに「し」らせる

という具合です。確かに大切なことがまとめられています。

専門家の方からこうお話を聴く機会があると、子どもたちも印象的に記憶にとどめられるように思いました。最後にお礼の言葉を述べる時間がありましたので、講師の方に御礼を述べるとともに子どもたちに少しお話をしました。

「皆さんが一人で歩いています。知らない人から声をかけられました。誰もついていってはいけないうとアドバイスしてくれませんか。判断するのは誰ですか？」と尋ねました。子どもたちは「自分！」と答えてくれました。「ということはさあ、自分の体を守るのは誰？」と続けました。子どもたちは再び「自分！」と答えてくれました。

私は思っていることがあります。どんなに自分で気を付けていても防げない事故は確かにあります。しかしながら、交通事故も不審者対応も安全確保の第一歩は自らの判断にゆだねられています。そういう意味でも本校が目ざす子どもの姿は「自律した子ども」なのです。自ら考え判断し行動を起こすことこそ安全確保の第一歩です。

元気に家を出た子が元気に家へ帰る。こんな当たり前のことにふと不安を覚えることがあります。その不安が現実のものとならないよう、子どもたちに常に「自律」を促していきます。

ご家庭で「いかのおすし」を確認し合ってみてください。子どもが自分から行動を起こせるようにどうぞ声がけをお願いいたします。

